第11回 見る・聞く・話すを助ける環境を整える

前回は、「閉じこもりを防ぎ認知症を遅らせる」と題し、介護予防施設と介護施設のデイケアにおいて、閉じこもりを防いだり、認知症の発症や進行を遅らせたりすることを目的として、複数人がバランスよく参加できる会話の場を作る取り組みについて紹介しました。今回は、見る、聞く、話すといった、会話に必要な基本的な機能に衰えがある方でも、会話に参加しやすいよう、環境を整える工夫について紹介します。

東京大学 人工物工学研究センター 准教授、
NPO法人ほのぼの研究所 代表理事、
科学技術振興機構 さきがけ研究者
●大武美保子

会話への参加をあきらめる理由

もともと会話をするのが好きだった方も、さまざまな理由で会話に参加することをあきらめていることがあります。多くの高齢者が会話するうえで困るのは、耳が遠くてよく聞こえないことです。よく聞こえない状態で、時々聞き取れる言葉をつなぎ合わせてわかろうと試みても、それでもわからないので、しまいにわかることをあきらめてしまいがちになります。

うまく話せないことも、参加の障害になります。小さい声でボソボソと話しても、耳が遠い相手に聞き取ってもらえず、会話の流れに乗ることができません。また、何とか聞き取ることができ、話をすることができたとしても、考える速さがゆっくりだと、言葉が見つかった時に、すでに別のことが話題になっていて、発言してもチグハグになり、取り合ってもらえないかもしれません。記憶機能が落ちていると、言葉を聞いても意味がわからなかったり、聞いたことをすぐに忘れてしまったり、伝えたいことを表わす言葉を思い出せなくて、もどかしい思いをしたりします。

このように、さまざまな認知機能が落ちている高齢者が会話に参加するには、たくさんの壁があります。こういった壁を取り除こうと考案したのが、テーマを決めて写真を持ち寄り、話し手の写真を映し出し、時間と順序を決めて話し手と聞き手を明確にして会話する共想法です。

目は耳に比べて機能が保たれていることが多いので、話題に関係する写真を一緒に見ることで、理解が助けられます。写真は、話題の移り変わりに参加者が気づけるようにすることにも使えます。時間と順序を決めて役割を切り替えることで、会話の流れにうまく乗れない人や、言葉を見つけるのに時間がかかる人も、会話に参加することができます。

共想法ではこのように、普通の会話には参加することが難しい方が会話に参加できるように、ルールを加えています。この他、見ること、聞くこと、話すことを助ける環境を整えることで、より効果的に、会話への参加を妨げる壁を取り除くことができます。今回は、介護施設や病院において、共想法プログラムを実施する際に行ってきた、会話しやすい場を作る工夫について紹介します。

机といすの配置を変える

部屋の間取りによって、コミュニケーションが活発になったり、不活発になったりすることは、よく知られていることです。同じ間取りであっても、机といすの配置を変えるだけで、コミュニケーションのしやすさが